

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
特別支援教育・保育 I Special Support Education in toddler school I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程・教職課程必修 (幼稚園教諭二種) 必修)	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
乳児保育 I				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大塚登	本館 2階	火・水・木・金曜日の9～17時		授業中に指示します
授業の概要				
特別に支援を要する幼児の個別のニーズを理解し、支援の方法を具体的に学ぶ。				
授業の目標				
①特別な支援を要する子どもを「～できない」というイメージで理解するのではなく、社会参加を権利として「～すればできる」という考えに基づいて、自分なりの支援法を考え出すことができるようにする。 ②障害を持つがゆえに社会参加しづらい生きにくさ、言い換えれば自分勝手や努力の問題とは別の次元での困り感があることを理解した上で、支援法を考え出すことができるようにする。 ③そして支援の工夫は子ども一人ひとり異なり、一人ひとりをよく理解する努力の重要性を説明できるようにする。				
授業の方法				
基本的情報を提供した後、各回の事例について自分なりの支援法を考えることにより目標到達を目指す。その際、特別な支援を要する子どもをより具体的に理解できるよう、DVDなど視聴覚教材を活用する。				
学習の成果（学習成果）				
①「～すればできる」との観点から、支援法を工夫することができる。 ②保護者の願いを踏まえて、支援法を工夫することができる。 ③支援法を考える際、理解力が少し遅い、感覚障害があるなど、一人ひとりに応じた支援を工夫することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業内容・進め方・評価の方法・障害の概念）			
第2回目	インクルージョン及び合理的配慮			
第3回目	知的障害がある幼児の発達や心理の理解と支援の方法			
第4回目	ダウン症の幼児の発達や心理の理解と支援の方法			
第5回目	発達障害がある幼児の発達や心理の理解			
第6回目	発達障害がある幼児の支援の方法			

第7回目	肢体不自由がある幼児の発達や心理の理解と支援の方法	
第8回目	視覚障害・聴覚障害・言語障害等がある幼児の発達や心理の理解と支援の方法	
第9回目	重症心身障害児・医療的ケアを要する幼児の発達や心理の理解と支援の方法	
第10回目	子どもの発達を促す生活や遊びの環境	
第11回目	「自立活動」につながる遊具・教材を製作する	
第12回目	制作した「自立活動」につながる遊具・教材を発表する	
第13回目	制作した「自立活動」につながる遊具・教材の良い点をあげ、共有する。	
第14回目	保護者やきょうだいの心理の理解と支援の方法	
第15回目	地域の関係機関との連携や小学校との接続	
事前・事後学習	文献やインターネットを利用して、事前・事後学習に自主的に取り組んでほしい。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		
レポート	10%	13回目授業で、他者の発表の良い点を中心にまとめたレポートをまとめる。
調査報告書		
小テスト	70%	毎時間、知識の定着を測る穴埋め問題と知識を活用する文章課題出します（授業1回目は4% 6%×11回=66%）。
試験		
発表内容（態度含む）	10%	制作した「自立活動」につながる遊具・教材を発表する
その他	10%	遊具・教材の考案・発表（どのような目的を持つか、理解力や手指の巧緻性・運動能力などを考慮して考える）
教科書と参考図書		
幼稚園教育要領（平成29年告示）、保育所保育指針（平成29年告示）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験（職種：特別支援教育教諭、職歴16年） 毎時間資料を用意するので、ファイルを用意してください。		